

3. 繁殖・生殖工学

データ閲覧・コメント入力可能期間：2021年3月28日0時～4月3日24時（予定）

[P3-06]低産次で不受胎を繰り返した黒毛和種繁殖雌牛におけるその後の不受胎率の追跡調査

○谷村 幹太¹、上松 瑞穂²、北原 豪¹、大澤 健司¹、佐々木 羊介¹ (1.宮崎大農、2.NOSAI宮崎)

【目的】黒毛和種の受胎率は近年低下傾向にあり、その要因の一つとして3回以上の交配でも受胎しないリピートブリーダー（RB）牛の存在が挙げられる。本研究では、低産次において不受胎を繰り返した個体のその後の不受胎率を明らかにすることを目的とした。【方法】本研究は宮崎県に所在する黒毛和種牛繁殖764農場において、2005-2010年に分娩した1-3産の22,565個体を対象として、その後4産分の成績を追跡調査した。成績には、初回人工授精（AI）時の不受胎率（1stIR%）とRB牛の割合（RB%）を用いて0・1・2産次における受胎に要したAI回数（NIC）との関連性を調べた。【結果】0産次 NIC1回の個体と比較して、NIC2回・3回の個体では1-4産次の1stIR%、RB%に差がみられなかった。同様に1・2産次 NICにおいても、一部を除き、その後の1stIR%、RB%に差がみられなかった。NIC1回とNIC4回以上の間に関して、0・1産次 NICでは1stIR%に差がみられなかったが、2産次 NICではNIC4回以上の3産の1stIR%のオッズが2.02倍高かった（ $P<0.05$ ）。RB%は0・1・2産次 NICにおいてNIC4回以上のその後3産分のオッズが1.40-2.94倍高かった（ $P<0.05$ ）。結論として、RB牛はその後継続してRBになりやすいことが示唆された。